

## 平成 28 年度 みんなで支える森づくり 上小地域会議(第 1 回)

- 1 開催日時 平成 28 年 1 月 9 日(水) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分
- 2 場 所 上田合同庁舎 301 号会議室
- 3 概 要 本会議では、みんなで支える森林づくり推進会議の設置及び運営に関する方針第 2 により設置し、第 5 により所長が招集している。  
第 1 回は、長野県森林づくり県民税活用事業の実績と成果を主な議題とし、森林づくり県民税の活用や今後のあり方等について意見をいただき、また、北森林組合の補助金不正受給に係る取り組みについても意見交換を行った。
- 4 参加委員 (五十音順 敬称略) 8名

東信教育事務所 生涯教育課長	池内 典和
信州上小森林組合 参事兼総務課長	石井 公彦
青木村農業女性グループ	上原 栄子
NPO法人 やまぼうし自然学校代表理事	加々美 貴代
長和町役場 産業振興課長(座長)	金山 睦夫
上小木材青壮年団体連合会 会長	田中 雄介
上小商工会議所 事務局長	矢ヶ崎 雅哉
上小地区生産森林組合連珠協議会 会長	矢嶋 茂雄

以下議事録

座長 金山委員

『上小地域の長野県森林づくり県民税活用事業の現在までの実施状況について』

説明 推進事業について 志水企画幹

木育事業について 関川補佐

質問 なし

『長野県森林づくり県民税活用事業の実績と成果について』

石井委員 (意見)

信州上小森林組合の石井と申します。長野県森林づくり県民税の関係、実施をお願いする立場として一言、テレビ等の報道で予算が余っているという話もある中で、現実には手を入れなければいけない山はいっぱいあるということを知りたい。しかし、税事業は税単

独事業として、皆様にいただいた6億円に、国庫事業を取り入れるなどして、大きな面積をやるようになっていたりします。税事業をスムーズに行うにはいろいろなハードルがあり難しいところもあります。そこをもう少し使いやすい形に考えて貰えばいいと、使う側の意見としてお話しさせていただきます。

志水企画幹（回答）

具体的にどういうところが使いにくいのでしょうか。

石井委員（意見）

税事業というのは山を整備するのに1ha以上で、三人以上の森林所有者さんが一緒に行うようになっていきます。例えば間伐などを行うと、税事業の方ではそこに国庫の間伐事業の予算も入ってくるので、国庫事業の厳しい基準にひっぱられてしまいます。里山の集落には高齢になった方々の家の裏のすぐそばまで雑木などでやぶやぶになったりしています。間伐とか除伐とかのメニューに当てはめようとする、手入れの仕方などの制約が色々あって、そこに当てはまらないとダメだよということになり、ただ草だらけのところを伐ってもダメだよということになります。今後も里山という言い方で税事業を導入していこうと言うのなら、そういったところにも、もう少し柔軟に対応できるよう制約が緩くてもいいのかなという気がします。

志水企画幹（回答）

税事業は平成29年度で一区切りになって、内容の見直しを具体的に検討しています。石井委員さんが言われたように、こちらの基準に合うものじゃなければダメだということでご遠慮いただいている場所もあるのかなと思います。森林整備に厳格にこだわるだけではなく、緩衝帯の整備ということで、やぶやぶの森林をきれいに見えるようにするというのも、鳥獣被害の対策に役立つという目的で整備したことがあります。その辺でのニーズに答え、いろいろな意見を吸い上げながら、みんなで使っていけるものにしていきたいと思っています。今の要望も貴重なご意見として、県庁の担当部署へ伝えていきたいと思っています。

金山座長

税でやる以上、ある程度の制約は仕方ないと思います。やっぱり有効にみんなに効果が見えるように使うことも大事だと思います。森林税は継続する方向かと思いますが、そういった検討の中で県民の要望に応えられるものとしてもらえればと思いますので、よろしく願いいたします。

矢嶋委員（意見）

共有林を管理し経営を行っている組合の代表かと思います。柗津の生産森林組合の組合長でもあります。森林づくり県民税は、おかげさまで資料の1Pにありますように、アカマツの被害林、松くい虫対策でお世話になっています。松くい虫の被害が拡大し身近な山での御柱も、次回は難しいのかなと思っていたところですが、部分的にはありますが処置していただいたので多少、息は伸びるのかなと思います。森林整備については、専門的な高い見地で信州上小森林組合さんにご指導いただいております。なにせ組合を存続させることに必死で、みんなの意識も、木材を生産して地域の方と共有できるような森をつくりたいという意欲に欠けてきています。後ろ向きの考え方をなんとか前向きにしないと、山自体が荒れてしまう。どうしようもなくなってしまう手前で踏みとどまらねばならないと思っています。志水さんにも色々アドバイスを貰っているところです。そういう厳しい中で、森林資源を今日見てきた保育園のようにサイクルとして活用する、ああいう形のものがうまく廻っていればいいですが、今はかなりの部分でストップしている。私どもの組合も苦しい実情から限定的な経営、最低限の必要経費で何とか財政を圧迫しないよう、支出を最小限に留める努力をしています。なにせ木材の収入の見通しが立たない。売りたいくてもなかなか売れない。過去の苦しい時代に売れるものはすべて売ってしまい、売るのがない。売っちゃえば荒れちゃって植林しなければいけない。植林するにはお金がかかる。それでも組合員を総動員して、国とか県の補助事業が導入できるようなことを、なんとか手の届くところでやっていきたいと思っています。そういう中で森林税での事業に何とか取り組めるように援助いただければと思っていますので、今後とも身近なところに視線を置いて実施してもらいたいと思います。地域の山でもある組合の山を、どうやって次世代に繋げていくかという大きな課題を、木材消費という観点を持ち地域全体で盛り上げていかれたなら、活力ある森林整備として有効だと思うんです。よろしくお願ひしたいと思っています。

#### 金山座長

身近な里山を守るということは、森林組合さんが実際やっているところです。私らも個人では小さな里山みたいなものですら守れないというところもあります。集約化を行い、同意を取りながら単独での森林経営とまではいかななくても、森林税を有効活用していきたいということですので、事務局の方で県民の声としてお伝えていただければと思います。

#### 関川補佐

今、矢嶋委員さんがおっしゃられた税事業の使い難さは大きな問題だと思います。造林事業だからこそ、その意欲を代表する森林事業体が率先して、森林経営計画をつくり上げていくということになるかと思います。その中で矢嶋さんの居られる東御市、金山委員さんが居られる長和町は森林経営計画が進んでいます。なんでそんなに進んでいるかと言いますと国土調査が完了しているところだからです。自分の山が分かっていたら管理もある

程度様子を見ながら行えます。そうなれば意欲を引き出すことも容易です。もう一つ、今おっしゃられたように造林の支援というところです。7, 8年ぐらい前から長野県の森林資源の構成が高齢化してきている。まさに人間の社会が高齢化してくるとどうなるかと同じように、森林も高齢化するとどうなるのかということ、人間と一緒にございます。そういった中で更新しなければならない。上田管内では昨年からは森林認証という形で、市町村のみなさんご協力いただいたり、林業振興会等の皆さんにご協力いただいて森林認証というものに取り組みました。認証材を出荷しようという気運というのが東京オリンピックの絡みで意欲的となり、森林を更新しようということになっています。その中で森林税が何らかの形で支援できるようにしていくことも必要かと思えます。皆さんからいただいた税金を、特定の森林所有者の資産形成のために使用するのには甚だけしからんという議論はあろうかと思えます。林業が停滞したこのままで良いのかということなど、常に問題意識を持って工夫と研鑽を積んでいるところでございます。その点御理解を頂ければと思います。

#### 金山座長

伐期が過ぎている山が多くなっていると思うんですね。その山の資源を活用できればとは思いますがね。

#### 田中委員（意見）

上小木青連の田中と申します。私たちは材木屋の若手後継者等々の団体でございます。先ほども関川さんの方から説明があったように、税事業の木育推進事業で関係させていただきました。6月に行われた植樹祭の時に木工教室等行い、昨年度はミニチュアハウスというのを二基造りました。そちらの方も上田の植樹会場で組立を行い、お子さんたちに遊んでもらえるような形にさせていただきました。木育推進事業の一環で、先月、海野町商店街の組合さんと組んで海野町商店街の一角で木工教室を開いたところです。これは全てこちらの方から木青連の仲間が出向き指導して、参加者が木製品作りに取り組むとうもので、木製キットをこちらで用意させていただき親子で作ってもらいました。私たちは、家を建てるお客さんと向き合う機会が多く、森林税はどういうところに使われているのかという疑問をかなりの方から頂戴しております。今回の大北森林組合のこともちらほら聞かれるわけです。私たちの税金がうまく使われていないという言葉が頂戴しているところでございます。こういった中で森林税がうまく使われていないという考えを持つ県民の皆さんも確かにいるわけで、もうちょっと県の方でもPRが必要ではないのかなと思う次第です。私たち木育に携わるものも、一生懸命やっているわけでございます。今の子供たちが大きくなっていくにつれて、長野県は森林県であるという自負を教育に取り入れながら、物作りやに触れ合う機会を増やしていきたいと思っておりますので、ご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

金山座長

次の資料で大北森林組合の内容もあります。ユーザーさんからはそれに関するご指摘もあると思いますが、その他になにか言われたことはありますか？

田中委員

里山を所有している人からは、「うちの山、伐りたいんだけどどうしたらいい？」というご質問があります。「森林整備にはしっかり森林税を使っていただくというのが筋じゃないか」というメンバーもいます。

金山座長

大きくはないが、住宅を建てるお客さんで自分の山を持っているという方もかなりいらっしゃるのでは？

田中委員

私も出身が真田町ですので結構、山を持っている方が多いです。伐るのも残すのも難しいというはなしですね。今は、所有林がどこからどこまでなのか境もわからないということなんでしょうか。

金山座長

先程も話が出たんですが、やはり国土調査が入っていなければ自分の山がどこにあるのかわからないというのが実態ですかね。

関川補佐

実際、私も?????の仕事の方ともお付き合いさせてもらっているんですが、敢えて言うとうわらない。みんなわからないから逆に決めてくれっていうんですね。だから私の前の仕事?????では森林組合さんが、ここでいいですか、ここでいいですかという感じで決めて貰う。それによってみんなが、家はこのくらいなのねと、そこで決め打ちみたいな感じでやってもらった方が良いなというところがあったんで、そういったものがすすむための支援というのも、じつはこれ長野県の北信州森林組合というところが定期的な取り組みをしているところなんです、実は林野庁さんも目を付けていまして来年あたり、その専門の事業も立ち上がるんじゃないかと言われてます。ただ本当に誰がそれをやるのかと、一般的に国土調査というレベルでは市町村さんのお仕事になるんですが、実は書簡が農政部という形になっておりまして、そのいわゆる事業の綱引きというところがナーバスなところで非常に私も困っちゃったなあという、、、ないとたぶん進まないと思います。あればあったでよしという感じにはなろうかと思います。

補足 井上課長

関連しますと、先程??委員さんがおっしゃったように小さい面積????確かに上小管内、森林所有者が12000人ほどいらっしゃるんですが、その内5ha以下、まあ1ha以下が9000人ほとんどですね。そういうところをまとめてやっていかなければいけない。ある程度の基準にしなければいけないと?????????ますと、全体的に難しい、進まないという。どうしても、、後ろ向きに言ってもいけないんですけども、まあそういった?????????。

回答 関川補佐

もう一つの理由としては、個人情報という壁もございます。なかなか森林組合さんになると??の予算が?????やるなら隣の山もやろうよと言いたいが、隣の山が誰のかわからない。それを誰が知っているんだいと、まあ、当然???も御存じだけど口が裂けても言えないと、やはり私たちも個人情報を渡すわけにはいかないというところで結局は法務局にある?????という形になるんですが、法務局に行くとこれがまた不思議なことにお金を払えば情報をもらえるというシステムなんです、それも一筆2000円かかるという状況です。では5人分の情報をとるのに一万円かかってしまう。こういうところもですね、ある意味、我々としては取り組みが必要ではないかと思っていたところに今、林地台帳制度というものが来年からはじまるように森林法で改正されました。そういった中でより個人の土地の集約化というのが進んでいくようになると考えなければいけない、いわゆる地べたについてもっと、間伐のもっと手前のところで準備作業にもうちょっとお金をかけるべきなのかなというふうに考えています。

進行 金山座長

私らの町でも、いらないから町に寄付するよという話が結構出るようになってきて、どうするのかなというのが実情です。やっぱり集約化とかまとめて誰かが???なっていると思うんですが、経営とか管理しながら支援をしながら、マイナスにならないようにしていくしかないのかなと思うんですよね。

意見 加々美委員

本来は税金とか使わなくても整備できればいいと思うんですが現実、それはできないので。今、その山を見ていても全部、森なんですよね。でもこの森は集約化したとしても端から端まで手入れしなければいけないから、何をどうしたらいいのかわからないので、集約化するでもなんでも良いんですが、その地域で地域全体として個人の所有という考えを除いて、ここは木材として、ここは木を育てるに良い場所なのでそのように手を入れていきましょう。ここは放っておくとか、、放っておいたら災害等になってしまうかもしれないけど、災害にならない場所であればもう、あきらめるというのも一つの方法かと。日

本は端から森だらけなんで、ここの家は自分家の山を手入れして欲しいから集約化して手を入れして欲しいと。それが本当に将来的に価値のあるところでそこを代々、みんなですべていってもらえるものであれば税金を掛けて手を入れる価値はあると思うけれど、ただ胆略的にやりましょうといってもあまり意味がないと思うので、ちゃんと将来的にこの地域は森林税を使って整備したところは何とか里山の資源を循環して何かみんなで盛り上げて将来やっていきますというような前提があればきっと税金を投入する価値はあると思うんですけど。端から端までこっだけ森だらけだと投入のしようがないという気がしています。?????時間はかかるかもしれませんがやらなきゃいけないと思うし、それこそ若い年齢の森林が本当はないので、ほんとに今の子供たちと一緒に、50年、60年、70年の木が切ったとしても次がもうないので、そこから?????そういうところに労力がかかるかもしれませんが、やらなきゃいけないのかなと思います。

里山の森林資源を、2の間伐材の利活用等による継続的な森林づくりの推進ということですが、里山の森林資源を、供給から消費まで地域が一体となって様々な用途に利活用する、、ここは先進的な取り組みと書いてありますが、本来はきっと元々がやっていたところで決して先進的ではなく、また戻すというのは難しいと思うけど、?????と考えないとちょっと変かなという気がします。

進行 金山座長

先程、今回の森林税で里山の森林整備が4%ですか、4%ぐらい済んだと、、それが大きいのか小さいのかっていう話を事務局の説明もあったんですが、何と言いましょかね。でもこうやって見ている里山はやっぱり、先代と言いますか私らより先の人がちゃんと手入れをしたから安心して見ていられる山なのかなと思いますしね。木育ということにも繋がっていくのかと思うんです。

回答 関川補佐

今の加々美さんの話については、実は我々、長野県職員には忌々しい記憶なんですけども、田中康夫知事の????造林をしたいという話がありまして、その時出てきた話、フォレスト?????という言い方をする議論がありました。それはやはり山の奥、人間の手の届かないところは自然にお任せして人間は手の届くところだけしっかり手入れしましょうというお考えがありました。それ自身は????、それからもうひとつ、非常に政策を指示されてしまいまして、そのひとつは林道否定説だったんですよね。林道はけしからんという言い方をされてしまいまして、だいぶあの時、林道というものが批判的になってしまいました。たまたま林道というものはほとんどが市町村のみなさんが管理しているものなんで、市町村の皆さんが管理してくれれば別にいいんですが、当然、社会資本が大きくなればなるほど維持費も大きくなっていくという形の中で市町村の皆さんも、林道の管理が非常に厳しくなっていたとこなんで、そここのところは渡りに船だったのか、一気に林道の

開設意欲というのが非常になくなりまして、実は私が本庁林道係にいた頃は当時120億円の予算を使っておりました。それが平成4、5年ぐらいですね。それが平成13、4、年になってくると予算的には20億円まで減ってしまいました。今はもっと少ないです。そういった中で道が入っていないということはどういうことなのか、やはり人間が入る意欲をちょっと遠避けてしまうのかなというところがあります。おそらく余ったお金の使い道の中で、一番良いのは本当は、道をあけるというのが一番大きな?????。山に上がるのに二時間も三時間もかけて上がらなければならないことを考えれば、車で五分、十分で上がれるというところにいわゆるアプローチの安易さというのが山に対する取り組みのしやすさというところに繋がってこよいかと思うんですが、これがまた、道を開けると、じゃあこの道を誰が管理をするか、災害が起きたら誰の責任なんだと、そういうところが先行してしまいまして、まだまだ、道をあけるということについても環境が、法的も含めて支援策につきましても整備されていない状況なので、これは一朝夜にはすぐにはいかないだろうと思うわけですが、向こう側にきれいに見えてる山、これを整備しようと思った時に、歩いていくしかありませんねという話のときに、誰がやりますかと、この????の時代に誰がそんなことをやって????行くんだいというところで、いまだに林業というのは労働環境が非常に悪い。昔は土木が3Kと言われていたのが、まだ林業は3Kだと。労働環境としても非常に厳しい産業であると、そういうことを考えた時に道造りをしていきながらよりアプローチしやすい山づくり、何かあったときにもすぐ対応できるような山づくりというところに、やはり道の整備というのも必要なのかなという風には考えています。それが特に加々美さんみたいに山を一生懸命やっている方にとって、またそれが環境を壊すみたいにいわれちゃうと、我々としては一番厄介なんです。ですがやっぱり軽トラぐらいは中に入って簡単にアプローチできるという山も大切なんだろうと、??さんおっしゃったように関心が入るにはやっぱり、行きやすさというのも大事なのかなと思います。それがたぶん造林したときに木を育てるための山づくりのためには積極的にどんどん入れていくという考え方が必要たんだろうという風には思っています。

補足 井上課長

先程、加々美さんのほうから木が揃っているというお話を頂いたんですが。確かに人工林ですけどね、植えた木カラマツとかなんですが、いま上小管内の木の年数が、だいたい5年刻みで言うんですがじゅうれいきゅうというと50年ぐらいなんです、そのくらい以上たった木がだいたい78%、この管内を占めている。色んな部分で森林県だという話をこれから????にしていこうという話の中で、やっぱりその財源を使うということ、必要なことというのはまた県の方で支援して、その中で林道の話もそうなんです、そういう取り組むべき非常に大切な部分、目に見えているところがあるんだなというのは今、感じているところです。



進行 金山座長

森林県から林業県っていいですよ。少し森林税等で後押ししながらうまく廻っていったらもらえれば、綺麗になっていくのかな。

意見 上原委員

青木村の上原です。私もおばさんで色んなことが分からなくて、お父さんに森林税とかについても教えて貰って、こういった会議に出させてもらって、森林税はどういう風に使われているのかということも自分なりに勉強出来たりしました。それで青木村も今年はマツタケがだいぶ採れたんですが、やっぱり松くい虫にだいぶ侵されてまして、今まで採れていたところの松茸も松くいに入られちゃって、森林組合の職員の方が一生懸命切ってくださいたりしているんですけど、なかなか松くい虫に追いつかないような状態なんですけども。切った後なんですけど、そのままになっちゃったりして、松を切った後に何を植えようかと言っても、そのままになっているんですよ。災害のとき、少し前に青木村も大きな集中豪雨がありまして、木とかそういうものが流れてきてもう少しで新築したお宅が巻き込まれるところだったんです。それは免れたんですけども。せっかく切った後、上田市の????峠の辺りは広葉樹林を植えて今はだいぶ良い感じになっているんですけど、低い山は良いんですが、高い山の方は切った後、どうしたらいいのかなと思っているんです。広葉樹を植えようとしてもあまり高いところに持って行ってもどんな感じなのか。その森林税を使って一生懸命やったださって下さるのは良いんですが、その後の始末をどうしたらいいかなと思っています。家のお父さんたちはそんなに高いところではないんですが間伐を兼ねて広葉樹を切ってシイタケとか、仲間で杉の木をやってるんですけどね。間伐材の、ふるさと公園ができて東屋ができたんですけど、この資料をもらった時も東屋が間伐材を使ったんですよということでプレートも貼ってありますということで、見に行ってきたんですよ。さてどこにあるんだろうと思って、東屋の中に腰掛けもありまして、高いところにあったもので、こんなところにあるんじや、普通の人はせっかくこういうものがあってもちょっと分からないかなと思って。せっかくこんなに良いものを作ってもらったけど、そういうものを利用して作ってますよって、下の方であればわかったんだけど、ほんとに見上げるようなところであって、ちょっともったいないなと思いました。おばさんたちにも森林税の使い方が簡単に判るようにしてもらおうとありがたいです。

進行 金山座長

松くい虫の後処理の問題と、PRの問題というお話でしたけども。

回答 関川補佐

松くい虫の後処理ですが、青木村の方、仁古田も含めた????の方、樹種転換という形で松がいっぱいあるところに松くい虫が入ってしまっただけで全部やられてしまう、そうするとそ

こらじゅうに飛び散ってしまうということで、????とか仁古田のところ、いわゆる防衛線という言い方をしてるんですが、堤防みたいなものを築いて、それで青木村に虫が入らないようにという形でやっているところがございます。松くい虫の伐倒については切ったアカマツについては、基本的にはちゃんと活かして使っています。枯れたのも実は信州上小森林組合の方ではバイオマス発電所が長野市にあるのですが、長野市の方に運んで行ってお金の換えているという形で、その辺は木を有効に使わせていただいております。その後の木について何を植えるかについては、これはあくまで土地の所有者さんと意見を合わせまして所有者さんの意向に従って木を植えております。従いまして今年やっている上田市の方ではカラマツを植えたりしています。土地の所有者さんの意向に従って基本的にやっているということで、あまりこっちも強制的にこれを植えたりあれを植えたりというわけにいかないの、意向に沿ってやっています。ただ上原さんが今、心配されているのは高いところというのは木が1本1本枯れたところを切るというような話かと思えます。そういう話になると、やっぱり先程も話したように道がないのでなかなか木を一本一本切ってきて出してくるというのはできませんし、なかなか有効に使えないというのが、私たちも非常に悔しい思いをしているところです。また一本一本という形で切っていますので当然、その周りには、まだ他に広葉樹や色んな木がある中で、そこに一本一本植えていくというのは基本的にないと思うし、周りからは種が飛んでくるという形で広葉樹の山になってしましますが、山自体には問題はないんじゃないかなというようには考えています。言い訳をしてすみませんが、それでご理解いただければと思います。また何か疑問点や要望等ありましたら何なりと私どもにお伝え頂ければと思います。

#### 回答 志水企画幹

PRについてですが、先程説明しましたが森林レポートというもので皆さんのところにお配りしてございますが、P14のところにあります、上伊那管内というふるさとの森林づくり強化月間と出ていますが、実はここに写っているのは私なんです。ちょっとこう手をあげていますが、最初に作る時に非常に固い感じだったものですから、やはり身近なものとか、まずは見て貰うことが必要かなと思って、ちょっと色々工夫をしています。それで尚且つこの中で挙げているもの、取材をしてきてくれということでお願いしました。というのは具体的に森林税を入れている人たちがどのように思っているのか、尚且つその森林組合の方が訪ねて行ってもらって座談会をしているような形の絵にしてもらって、内容をこの中で示しています。また、これを取り寄せてみなさんに読んでいただくと有難いなと思っていますけども。そんな形で出来るだけ身近に、こういうことをやっていますよ、身近にこんな内容ができますよという形でPRしたという、これは例として?????と思っています。これをいつやったかと言いますと10月に森林の強調月間ということで月に一度、信毎に小さな冊子があると思うんですが、その冊子を見開きを買ってPRをしたというものです。具体的に見えるように出来るだけ簡単に、客観的に判るといのがとて

も大事だと思うんで、そういう形で工夫をしながらやっていきたいなと思っています。それからもうひとつ考えているのがラジオとかで話をしていく中で、やはり上原さん言われたように、かなり難しい言葉が???は多いものですから、それをどんな形で簡単な言葉にしていこうかなと、その辺を考えながら、耳から聞いたりというPRはどうかと個人的には考えたりしているんですが、そんなことで出来るだけ触れ合いながら身近なところでというのを気にしながらPRしていきたいなと思っています。

それから加々美さんのお話の中で、ちょっと戻ってしまいますが造林というのは非常に大事なことだと思っています、やはり投資をするところ、投資をしないところ、その辺を振り分けていかないと効果というのは見にくいのかなという感じがします。尚且つ使うところ、いま関川補佐からも話がありましたけども、道を開けて使うところ積極的に使うところ、そういう所を決めながらやるというのがこれから非常に大事なことかなと思っていますので、そこら辺を地元の方と考えながら取り組んでいこうかなと思っています。その辺もPRの中でお伝えしていきたいなと思います。

進行 金山座長

PRに関しては少し前にあった間伐展示品ですか、県民道沿いにきれいになって看板も付けて。もう見ただけであんなに役立った、きれいになったっていうのは良いなと思うんですけどね。すみません時間のほうも迫っておりますので次の課題を説明していただいた後、引き続きご意見を伺いたいと思います。

#### 『大北森林組合の補助金不正受給に係る取り組みについて』

説明 志水企画幹

意見 池内委員

今日ここに居させてもらって感じたことなんですが、自分は元々教員なので、ひとつ最初に思ったことが北小学校に行かせてもらった時に松くい虫の被害木、あれだけの量のものを処理して伐採して貰っているという。それが事業とリンクしてできるようになったのには経緯は何かあるのでしょうか。PRも関係するのかなと思うんですが。というのは他にも、北小は木が多い学校かなと思うんですが、ほかの学校でも同様のところがあったりして、考えた時に自分が学校にいた時に、100周年記念の松の木が松くい虫にやられて切ったことがあるんですが。地域の方に話をして、やられているなら早く切れというように地域の方のご理解を得たのですが、木を切るお金をどこから出すのか、、結局は学校の予算から出したんですが。一本切るのにそんな苦勞をしてね、経済的なこともあって。北小であれだけの木をできたというのは非常にありがたいことだと感じました。だからそういうところで良さとかPRをしていただけると良いのかなと思います。北小は恩恵を受

けていていいなと感じました。

それから大北の問題についてですが、それで感じているのは結構、不正があるよということと言ったとか見つけだして、分かってそれを表現した方がいらっしやるんですよね。それは審理基準があるんですが。そういう方の意識と不正に流されてしまった、そういう場面になってしまった方たちの意識の違いは何かなと思うんですね。そういうところの共通認識、共通意識というものをやっぱり組織として図っていかないといけないんだろなと感じました。志水さんが話をされたように一人でとか単独でというのはなかなか大変かな危険かな、プレッシャーも多いし。そういうところで支援ていうのも大事なんだろなということも感じています。

回答 関川補佐

実は私どもも松くい虫の伐倒駆除をやっているんですが森林業界？の仕事でございましてどうしても森林関係でないとお金が使えない、いわゆる街路樹だとかそういったところの庭木という部分に関しては基本的に支援の対象にならないというところが非常に苦しいところでございます。ですので私ども上田城址公園だったり国分寺公園で上田市さんが樹幹注入という形で薬をいれたりしている仕事は、あくまでも市の単独事業ということでやらせていただいております。そういった形の中でたまたまお声が掛ったという形になってしまうことは事実です。申し訳ないと思います。北小さんは多分、上田市にご相談をされた中でなんとかするよという話になったんだと思います。庭の仕事なのか山の仕事なのか非常に難しいところになってしまうんですが。うちとすればご相談していただければというしかないですし、こういう事例があるということはPR不足と言われても仕方がないのかなど。実をいうとこの前も上田高校から電話がありましてちょっと来てくれということで行くと、松狩りをしちゃったので一本切ってくれということで、、刈れないよということで上田市に相談してくれということで相談したところ、云ってくれば切るよということで、上田市さんが切ってくれました。そういった形で声をかけて貰うのですが私たちは動きようがないということで。PR不足なんだろうなということを感じます。

補足 志水企画幹

上田市さんの方では教育委員会と森林整備課の関係が密なんですね。だからそういうところが必要なところ、必要でないところを選択していただくんですよ。うちの方の松くい虫の事業というのはお金をドンと渡して、計画はもらうんですが、ある程度自由採用とか市町村の中でやれるんですよね。そういう点というのをうまく使ったんじゃないかなという気がしているんですよ。そこら辺を逆にもし池内さん、OBとして相談を受けた時には今のようなこともあるからというのを言って頂ければそういうルートというのが開けて、学校も使うところ色々あるじゃないですか。それを松の木一本のために3、40万かかるって話よりは有効な使い方をしてもらった方が生徒さんたちもありがたいと思うんで、

今のこの機会を以ってご相談があったら逆にPRしていただければそうですね。

意見 矢ヶ崎委員

実は私も松くい虫といって北小が対象？と思ったんですよ。というのは、ひとつはこんなに下の方まで松くい虫にやられているのかと思ったのと、もっと松茸が出るような山をやったらいんじゃないかと思ったもんですから、少しびっくりしたというか、どうして学校なんだろうと思ったのが感想です。私は北小が母校なんでやってもらってよかったなというのがありますけど。やっぱりどこをやるかというのにすごく苦労されているんだなという感想を持ちました。里山も県全体だと4%、なんか数字的に少なく感じますけど諏訪湖の何倍って言ってもらくと、なるほどなイメージができるのかなというのがあるので、ひとつは先ほどの個人の所有のところもあつたりなんかして、その選定がかなり難しいんだなというのが今日、実感しました。それと全体にPRということに関しては、今回のこの大北の事についても金額がまたすごい金額なので私たちも最初、何をどんなふうに使われているのかよくわからないから、こういうことも起こっちゃうのかなということなもんですから。やっぱりこのくらいの金額は掛るんだと、整備するにはこのくらいの金額が掛るんだという認識があれば、それなりにこういうお金が使われているんだなという風に思いますけど、全然そういうのが分からないもんで、そこで2億だ5億だといわれても全然、感覚がないんで、、、やっぱりそういうことを県民の人たちが知ることが、こういう不正をね、2億って言われても今でもピンときてないもんですから、やっぱり周知することが、こういう不正というかを少なくなるひとつなのかなと思いました。

質問 関川補佐

石井さんにひとつ確認したいことがあるんですが、使いやすさで、使いにくいというお話があった中で、自分の確かに森林税を国庫を補助するとき抱き合わせで使おうとするときに国庫補助金のルールの方が厳しいからそっちの方に引っ張られちゃって自由に使えるはずの森林税が自由にいかないということがあったと。要するに森林税単独の事業を増やした方が良いのか、それともこれまで国庫補助金というのが70%ぐらい補助金もらえる所にさらに10%のかさ上げする方が良いのか、どっちなのかなというところなんです。

意見 石井委員

今日の会議の中でこの税事業で里山ということで学校の松を切るなんてことは俺も知らなかったです。松くい虫の木は山の中だって全部補助金で切ってもらえるわけではないです。守るべき松山のところはやりますよ、そうでないところは放っておきます。骸骨の山もあるんですよ。やりたくてもできないんですよ。それが学校をやるというからすごいなと思ったんです。今みたいに結論は両方やってもらいたいと。今、国庫事業で奥谷の方いろんなところの山もやっていて補助金だから100%なんて来なくて、どのくらいかは負担金

があるんですよ、そののところにこういうものに乗っけて貰えればもうちょっと進んじやないかと。それと同時に谷間みたいなのがあるんですよ、さっき言ったみたいに骸骨みたいになった山、松くい虫の補助金が来ないから手も足も出ないんですよ。地主さんに金払えなんて言ったってそんなものって。森林組合もないんだって言ったって、俺も給料もらってるところで、給料もらえないですよ。そういう狭間のところに持って行ってもらえるようなこと、地域に10この地方事務所があるってことで、10の地域に分かれてるなら県民税もその地区の要望に合わせて、なんかもうちょっと使いやすくしてもらえれば、いろんな意味で持って行かれるんじゃないかと。それと同時にいろんなことやっているのをPR、ほんとにPRこんなことやっているんだ！ていえば税事業が分かってというか、これはありがたいなことになると思うんですけど。一般の人たちも、直接山に関係のない人たちにもなるほどなと理解して貰えれば、なにもそのお金を全部、国庫に入れちゃってるわけじゃないんだし、地域のためになっているとわかってもらえれば、一番最後のこれからの見直しの中で、良いよって言ってくれる人も、もう少しわかってもらったところで考えて貰えるんじゃないかなと、こんな気がします。

私の方でどうしても言いたいことが。二番のところでこの大北森林組合の補助金不正受給問題の質問の2行目のところで、不十分だとすれば何が欠けているかということで、十何億もの金、いったいどこに行っちゃったんだと。これいったいどうしちゃったのか、そのところがわかれば教えていただきたいです。俺も今日来て被告人席に立とうかと思ったぐらいで、今日の資料がなかったらそうは思わなかったんですけど、資料広げてみたらこれはえらいことだなと思って。そんな中で大北の森林組合と佐久の森林組合、松本の森林組合しか出てこないんですけど、問題が大北の森林組合が仕事をやりもしないで補助金をもらっちゃったとか、新聞に出て盛んに裁判の最中だと思うんですが。それとこれは憶測なんだけど松本広域さんとか佐久さんもそんなことをやったんじゃないかと、補助要綱に合わなくて返したやつと同じ土俵に上がっちゃってるから、信州上小もお前も同罪だと。上の何とか森林組合の何とかがどっかいつちゃって森林組合おまえらは！て言ってくるから。そののところでできれば一般の方たちはそんなことわからないから、みんな同じようなことやっているのかなと思っちゃうのと、どうやったって十何億って見たこともないような想像もできないようなものだけど、、、いったいどうなっちゃったんだって、その辺が分かれば、もっとすっきりするんじゃないかなと。これは個人的意見ですので組合関係ありませんので、そこだけはよろしくお願いします。

回答者 ？？？

??

意見 矢嶋委員

松くいの関係で、こちらでいただいている会議資料のP3に東御市芸術むら公園内の松く

い虫枯損木処理事業とありますが、私たちも??????御柱とかお宮の、、山の神社が境内がつぶれそうというか神社の建物にかぶりそうな大木でして大変に助かったんですけど。その?????とても危険で、だいたい松くいに合うのは大木なんですよね。周りでの作業が危険で、上でいつ風や雪や雨で倒れて下にかぶさると脳天から即死ということもあるので大変危険なので、ほったらかすと大変危ないし、またお金が数十万円かかるので、専門で機械も使って指示をさせながら安全確保をしながら切らないと、我々のセミプロもいるんですが、手に負えないという危険があるということを承知で、それを救ってくださった。それからあと今の大北森林組合の関係なんですけど、ただ単的に税金の有効活用の中にも二通り方法があると思うんですね、一つは道路を造るとか、あるいは機械化作業の素晴らしい機械を高性能な機械を購入するとか、代金がつきものなんですけど、もっと広い意味で森林をみんなで支えていくとか森林をこれから次世代に繋いでいく教育というかそういう部分のお金もあるわけで、その見えない部分というものをこの大北さんを含めて、ただ単に領収書があって差引きで残りの金額はどこに行っちゃたという不正追及の意味よりももっと広い意味で大北地域の森林をどうやって生かしていくのかという部分でお金が大いに使われているんじゃないかと。かなりその辺は薄まってもいいんじゃないかと、私個人の意見ですが。

私たちの森林組合の中に林道がありまして、いわゆる市道と私どもの林道との境が分かりまして、今度交通止めすることにいたしました。今年の11月、来週あたりにゲートを造って交通止めにしてしまいます。これは辛いことなんですけど、私どものところは松茸なんかは出ません。出ないんですけど山に親しんでもらっていろいろな水源地などもありますから、林道が結構発達しているもので、楽しんでもらいたいんですが、ゴミが酷いと。県の広報を見てもゴミを抱え込んでいますね。ですので森林税をいかに使ったかというPRのほうも大いに大切なんですけど、合わせてゴミを山の中にやって見えないところにドッサリ！これをなんとかいい方法はないか、一番の願いの点ひとつあると思いますね。

あともうひとつだけ、有害鳥獣の関係でクマとかいっぱい出て、今年も相当、春の段階とか、秋の段階で松茸狩りにも怖いなと思って、私なんかも山作業行くときには鈴をつけていく様にしているんですけど、そういう中で鳥獣駆除の中で見ていると猟友会の方々に市なんかで委託しているんですね。委託しているんですけど、新聞で見たり仲間の方から聞いたりすると、クマは捕獲したんだけど放しちゃった。なんで放しちゃったんだ！おかしいじゃないかという考え方。聞くと錯誤とかで要するにわなで仕掛けた物はシカで、囲ってある柵の方がクマなんだとか訳がわからない。ちょっと理解が足りないのかどうか分からないんですけど。捕まえたらそれは害を及ぼしているものですから。それで怪我をした人もいるわけですよね。これは人間社会の中で、クマの社会もあるでしょうけど、それはぐっと抑えて、錯誤ではなくて被害をあたえたらもう殺処分というんですかね、やっていいと私は思うんですがね。それをまた森の中に逃がすっていうのはどうもね。人間社会においてかなり量が増えてると思ってるんです、シカも含めてね。そこら辺がどういう法律が

あるのか私はわかりませんが、ちょっと問題があるなど、一般的な意見です。

回答 開藤鳥獣対策専門員

私が鳥獣対策専門員ですが、錯誤捕獲のところにも随時足を運ばせて頂いているんですが、やはり一般の方から見るとクマは怖いということの表れかなと。今年は特に東北の方で人が四人も亡くなるということが春先にあった関係か、報道の方も良く取り上げていただいて皆さんの方に今年クマがいろいろな面で意識が高まっていたということもあるんですけども。一応、おっしゃられたように出沒してきてリングに被害を与えるとかそういったクマについてはやはり捕獲して殺処分という形をとらせて貰っておりますが、クマも色々とありまして、すべてのクマが被害を及ぼしているわけではありませんが、難しいんですが、、錯誤というのはあくまでもシカを捕えるために掛けているところにたまたまクマが通ってかかってしまったと、それを殺していくとなると、なんでも皆殺しにすれば良いじゃないかと、逆に言えばそういうことになってしまうんですね。鳥獣の方の法律でも錯誤捕獲については、たまたまそこにクマが通って掛ったものなので殺さないで錯誤捕獲するようにと一応、決まっております。尚且つうちは何が恵まれているかというところと軽井沢にピッキオさんというクマ対策員の方がいらっしゃいまして、安全にクマを放獣できる体制が整っているということもありまして、もしそういった方がいなければ危険が高まるので錯誤捕獲になったクマも何らかの処分をしていかないと手が付けられないかなということもあるんですが、そういう体制が整っているということで、一番は増えすぎたシカを捕えるということから来る錯誤ということ、これがまたシカが減っていった掛けるわなが減ってくればそこに掛るクマもまた減ってくるということで、たまたま今、山にかけているシカのわなが多いということで、そこに出沒してくるクマが掛ってしまうというような、そのような状況になっちゃっているんですが、もうひとつ、一度捕まると歯を抜いたり歳を調べるために毛を抜いたりするんですが、そうやって少し体にダメージを与えて放獣をかけているんですが、タグというもの、番号を付けて放しているんですけども、一度そういうことで放した熊はそう簡単には里には下りてこなくてですね、今度は居なくなって上から違うクマが降りてきちゃうというようになっています。なので下でいくら殺処分してもいなくなったところに上からまた、降りてくるというようなことで、教育して山にかえしても、それがまた来ているんじゃないかと、違うクマが降りてきているという感じになっています。

進行 金山座長

遅くなってしまいましたが、課題について、それぞれ委員の方からご意見いただきましたので、以上をもって会議を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。



会議は以上、その後、事務局から今後の予定が説明される。